

■高橋由一 洋画家。幕末に油絵実技を独力で開発、維新で場所を得、近代日本の洋画の端緒を開いた。

たかはしゆいち

シボク事件・1828＝江戸の下野国佐野藩邸内に生まれる。

富籤流行・・1830＝2歳：入り婿だった父が母と別れたため、祖父のもとで育つ。

・・・・・1836＝8歳：藩主堀田正衡の近習として出仕。のち近習長となり、図画取扱を兼務。

大塩平八郎乱1837＝9歳：

蛸社の獄・・1839＝11歳：この頃、はじめ狩野派に学ぶが満足せず、独学。

病弱のため家業の継承をあきらめ、絵画に従事することを決意。

阿部正弘首座1845＝17歳：

孝明天皇・・1846＝18歳：

この間、石版画を見て感激し、洋画法の学習を志す。

藩主より西洋画の模写を授けられる。

ペリー来航・1853＝25歳：

安政大地震・1855＝27歳：

五ヶ国条約・1858＝30歳：嗣子生れる。

桜田門外変・1860＝32歳：

生麦事件・・1862＝34歳：藩書調所画学局に入り、川上冬崖の指導を受ける。

禁門の変・・1864＝36歳：開成所画学局出役介となり、

薩摩藩士密航1865＝37歳：「画学局的言」を書くが、油絵の実技がままならないのを知って、

薩長同盟・・1866＝38歳：横浜居留地のワグマンを訪ねて入門。貿易商ショイヤー夫人も訪ねている。

大政奉還・・1867＝39歳：藩命で遣清貿易使節団に参加、上海に渡航して、租界地の“洋務運動”にも接するが、油絵実技は独力で開発する。この年パリ万国博覧会に油彩画を出品。

明治維新・・1868＝40歳：

戊辰戦争終・1869＝41歳：ジャーナリスト柳川春三を介してワグマンとの同居申請を東京府に出すが、不許可となる。

廃藩置県・・1871＝43歳：大学南校画学係教官に任命される。「ナイアガラ瀑布」など出品。

学問のすすめ1872＝44歳

明治6年政変1873＝45歳：ウィーン万国博に「富嶽大図」を出品。この年、私塾(天絵楼)を創設。

佐賀の乱・・1874＝46歳：「海魚図」「田子浦富嶽図」などを宮内省に献上。東本願寺の命で二図を上納。

初の民間工場1875＝47歳：京都博覧会に「鮭」を出品。{天絵楼}を{天絵社}と改称。我が国最初の洋画展に「乾魚之図」を出品。

三つの反乱・1876＝48歳：*フォンタネージの教えを受ける。{天絵社}で門弟との月例展示会を開催し、「花魁図」や「鮭図」など近代日本洋画の記念碑的な作品を出品。

西南戦争・・1877＝49歳：第1回内国勲業博覧会に「甲冑図」などを出品して賞牌を受ける。

琉球処分・・1879＝51歳：{天絵社}が東京府認可の私学{天絵学舎}となる。元老院の依頼により、明治天皇を描く。

・・・・・1880＝52歳：*我が国最初の美術雑誌{臥遊席珍}を刊行。この前後、金刀比羅宮の依頼に応じて「浅草遠望」や「なまり節」など35点の油絵を奉納。以後、東北地方の一連の風景画を描くようになる。

明治14年政変1881＝53歳：三島通庸の依頼で山形県下新道の写生油彩画を描いたのをはじめ、

新体詩抄・・1882＝54歳：月例展示会終る。

秩父事件・・1884＝56歳：東北三県新道200図の写生を3冊の石版・手彩色で上梓。{天絵学舎}を廃校にする(官立系的美術学校を別にすれば、日本で最大の“画学教場”として、創設以来の習学者は150余名にのぼる)。

内閣発足・・1885＝57歳：“展画閣ヲ造築セン事ヲ希望スルノ主意”を元老院議長佐野常民に提出。

写真を参考にした後期の代表作のひとつ「山形市街図」は、対象の質感・量感をみごとにとらえ、幕末期に洋製石版画を見て洋画を志した由一の集大成となっている。

帝国憲法発布1889＝61歳：明治美術会の創設に協力。

足尾鉾毒始・1891＝63歳：*この年から胃病のため就褥。

大本教・・・1892＝64歳：病床で“高橋由一履歴”をまとめ、

郡司千島探検1893＝65歳：旧天絵学舎の主催で“油絵沿革展”を開催、司馬江漢以降の日本洋画史を展望する作品200余点を展示する。

日清戦争始・1894＝66歳：没した。